

白山ろくにおける森づくり及び耕作放棄地再生の支援

学生団体名 国際交流サポーター（北陸大学）

参加学生 孫雨晴、ほか 15 名

1. 地域活動の概要

本プログラムでは、山立会と提携し、白山ろくにおける森づくり及び耕作放棄地再生の実際的な作業を行った。この里山保全活動を通じて、白山ろくに住む人々と留学生との交流を行い、白山ろくの過疎地の活性化を促進するのが主な目的であった。また、留学生が白山ろくでの生活を体験することにより、自国で学んだ日本についての知識や日本人の思想や習慣、文化などについて再考する機会を得た。さらに日本の地方が抱えている問題についても考えることができた。

2. 地域活動の具体的な内容

2-1 山菜栽培

第一回目は、7 月に実施、北陸大学からは 10 名の留学生が参加した。「ヤマダチ会」と一緒に道の駅瀬女裏の耕作放棄地での山菜栽培の手伝い、地域の方との交流をした。山菜を植える場所の草刈、わらびの畑の草刈をした。また、作業終了後は、収穫した野菜とイノシシの肉を自分で調理し、地域の子どもたちと交流を行った。

休憩時間に食べたスイカや地域の方からのシソジュースも作業後はとてもおいしく感じた。作業終了後に食べたイノシシ肉も最初はびっくりしていたが、とてもおいしく、食事に感謝することができるような体験だった。留学生の多くは都会で生まれ、育ったために植物を育てた経験がない。また、野菜がどのように実をつけているのかも知らなかった。初めてする体験が多く、大学内ではできない体験でとても楽しんでいた。



2-2 里山についての学習①

第二回目は、9 月に瀬女コテージで学習会を行った。理論的なことを学ぶために森や里山について考えた。教科書では学ぶことのない「里山」と昔の日本の生活とのかかわりを知ることができた。また、環境保護や現在山で起きているさまざまな問題が「里山」と関係があることを学んだ。留学生の多くは中国からの留学生だったので中国の自然についてや環境問題などを日本の自然や環境問題との比較を通じて考えることができた。また、2 日間で体験した白山ろくの自然や自然が作りだした川や山を見ながら日本に来る前に想像していた日本との違いを楽しんでいたようだった。



2-3 山菜栽培

第三回は、10月29日に行う予定だった。主な作業は、ワラビの根の植え替えで、今回は尾口町の方と北陸大学の留学生での作業だった。しかしながら台風が来ているため、山立会と相談し、中止になった。

2-4 木の玉切り（きのこ栽培のため）、きのこ植菌

第3回目は、11月に実施した。旧河内村にある里山でコナラの玉切り、シイタケの植菌を行った。チェーンソーは前回講習を行い、練習したので、上手に玉切りができた。また、ドリルでコナラに穴を開けて、シイタケの菌駒を木づちで打ち込んだ。2年後の収穫を想像しながら、イノシシとキノコのみそ汁を食べた。普段食べていきのこが収穫まで2年かかることに驚いていた。



2-5 畑の冬支度、よもぎ・ごごみの植栽

第五回目は、11月9日に道の駅瀬女裏の耕作放棄地で作業を行う予定だった。作業は畑の冬支度、

山ヨモギ、こごみの植栽を中心に行う予定だったが、大雨のために中止した。

2-6 里山についての学習②

今回はただ単に里山での体験をするだけではなく、里山が抱えている問題についてどのように対応するかをワールドカフェ形で考えた。実際に日本国内で行われている方法や中国での実例をもとに各グループでいろいろなアイデアをだし、それを発表した。



2-7 冬の里山調査

第7回目は3月上旬に瀬女コテージで行う予定である。雪の白山ろくを実際に体験したり、雪の多い地方の人々の暮らしについての話を聞いたりしながら雪国での生活について調査を行う予定である。また里山に住む動物や里山で見られる植物などを通じて里山の冬を感じる。さらに白山ろくに住む若い人たちと一年間の作業や研修で学んだことについて語る予定である。

3. 地域活動の成果

白山ろくにおける森づくり及び耕作放棄地再生の実際的な作業を行うことができた。今回は里山での活動よりも里山を生かすための様々な取り組みのサポートが中心になった。これまで触れたことのない道具や機械を使い、里山に自然に生えている山菜を耕作放棄地に植えることができた。今後、植栽した山菜を道の駅で販売する予定である。白山ろくの土地を活用し、町に住む人たちが里山での生活を身近なものに感じることができるよう活動の手伝いがあったと思う。また、このような作業を通じて、山で生活をする人たちの意識の変化も感じることができた。

里山保全活動を行っている人たちは高齢者が多く、後継者も少ないため、労働力として活躍できたと思う。また、地域の方たちも若い留学生との交流を通じて楽しい雰囲気で作業をしていたのが印象的であり、地域の方々も他国の若者との交流を通じ、新たな発見があったように感じた。留学生は、白山ろ

く地域住民との交流を通じて、日本人の思想や習慣、文化などについて再考する機会を得ることができた。それと同時に日本が抱えている問題についても学習会や実体験を通じて考えることができた。

4. 来年度の地域活動計画

山での活動、畑での活動など実際的な作業が中心であった。しかし、この活動では、里山保全活動を通じて、白山ろくに住む人々と留学生との交流を行い、白山ろくの過疎地の活性化を促進するのが主な目的である。そこで、今年度は里山について知る活動、考える活動を行った。来年度はこの活動を発信し、過疎地に人を集めることや集まった人たちでできることを企画したいと考えている。

5. 学生の感想

①山の活動はとてもよかった。なぜなら、自然に接触することができたからである。しかし、それよりも大学では接することのできない地元の住民と交流することができたことが一番良かった。言葉は難しかったけど、人々の優しさに触れることができた。

②大学生として普通の授業だけでなく、山の活動を通じて、仲間と協力して作業することでいろいろな経験ができた。みんなと一緒に散歩しながら大自然の美しさを楽しんだ。頭や気分を転換し、勉強にも役立つと思う。ものすごく充実していた。

③中国では生まれてからずっと都の中に生活してきたので、農作物に触れる機会はあまりなくて、果物や野菜はどこに実をつけるのかもぜんぜん知らなかった。今度の山のプログラムに参加することで、里山などを自分の目で見て、自分の手で触れて、すごく嬉しかった。身の回りにある赤々なトマト、細い茎から落ちそうなナスなど、自分が自然と融合していると感じた。そして、熱いときに地元のおばあちゃんから、冷たいシソジュースを飲んだとき、最高だと思った。

④町の喧騒から離れて、鮮やかな緑の中で散歩していて、気持ちが落ち着いたり、柔らかな風に吹かれて、自然の美しさで包み癒してくれたりした。夕方の静かな山里で、先生と未来の語りをしながら、仲間同士で焼き肉を味わうことが最高だった。白山の緑や黄色、鳥や虫、満天の星空、心からこの美しさを愛していて、ゆったりとした時間が流れていた。白山で過ごした日はいい思い出になった。

6. 地域活動に対する地域からの評価

山立会では、手入れされなくなった二次林や耕作放棄地を山菜栽培や自然体験事業の場として活用する事業を昨年度から開始しており、昨年に引き続き北陸大の学生諸氏に参加してもらった。

今年度は、山菜農園の草むしり、ワラビの植栽、山菜農園の冬支度などを手伝ってもらった。最初の方は、大半の参加者にとって農作業が初めてだったため長靴がないなど不安な点があったが、後半には大学の方で長靴や軍手を用意していただき助かった。地域側としても、学生に対する服装や作業の指導方法、用具の充実などを今後改善していく必要があると感じた。

実際の作業に関しては、特に夏場には重労働にも関わらず楽しそうに積極的に作業する姿が印象的だった。堆肥の運搬など人力の必要な作業が多かったため、実際の労働力としても多いに貢献していただいた。また、作業の合間には、昼食でしし汁などを食べながら地域住民と交流する時間もあり、地域にとっても充実した楽しい時間となった。今後も、継続的に学生に参加してもらえるような体制を構築していきたい。